

都市再生整備計画 事後評価シート
寺家地区

令和 2年 11月

広島県 東広島市

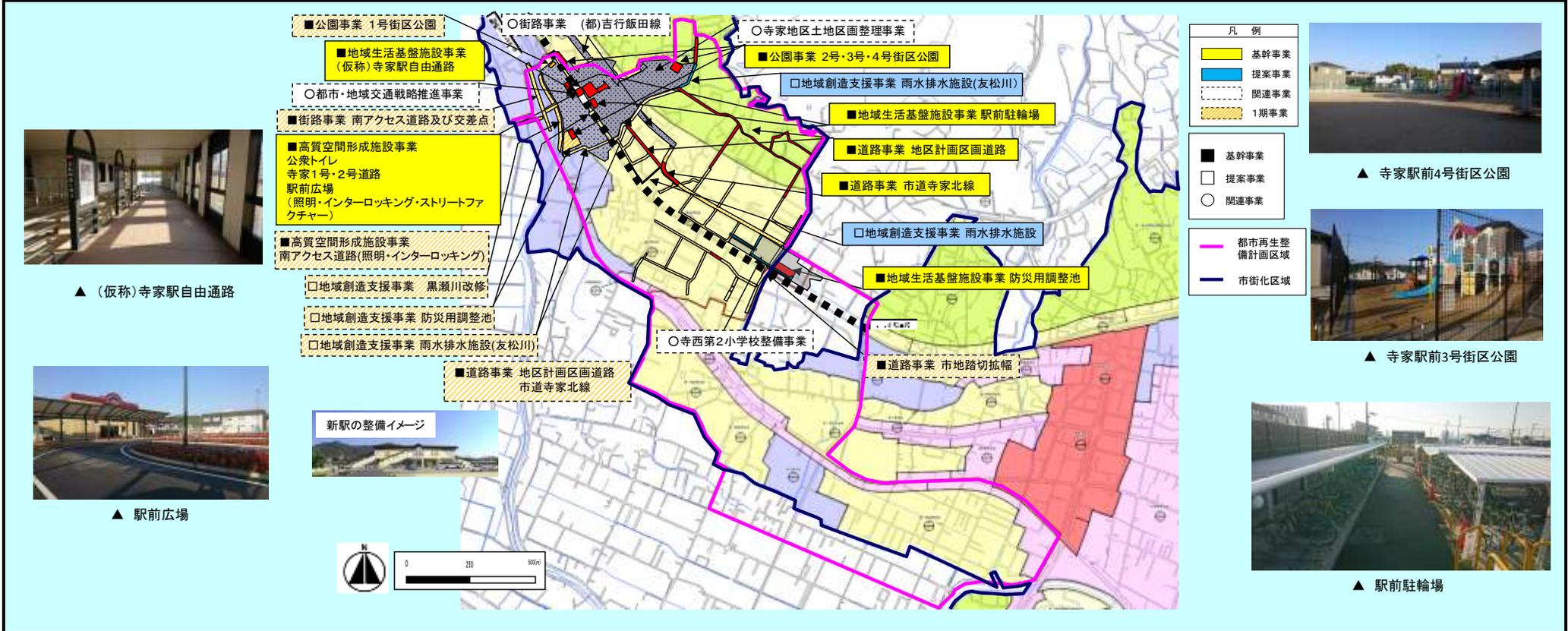
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県		市町村名	東広島市		地区名	寺家地区			面積	157.5ha		
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	2.295百万円	国费率	0.40				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(寺家北線、地区計画区画道路1号線、地区計画区画道路2号線、地区計画区画道路4号線、地区計画区画道路5号線、地区計画区画道路6号線、地区計画区画道路11号線/公園(2号街区公園、3号街区公園、4号街区公園)/地域生活基盤施設(自由通路、自転車駐車場、防災調整池整備)/高質空間形成施設(寺家1・2号道路駅前広場(照明等)、公衆トイレ)										
		提案事業	事業活用調査(まちづくり事業効果分析)										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	道路(地区計画区画道路3号線)					隣接する民間開発により、目的を同じとする道路が出来たため。			影響なし		
		提案事業	-					-			-		
新たに追加した事業		-					-			-			
交付期間の変更	当初	平成27年度～31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	-		-			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ		
	指標1	計画区域内の居住人口	人	8,000	H26	10,000	H31	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	総合所見	予定時期
	指標2	寺家駅の駅勢圏内の人口増加率	%	1.6	H26	2.5	H31	-	3.0	○	あり	-	-
	指標3	浸水被害想定面積	ha	176.1	H26	157.8	H31	-	157.8	○	あり	-	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	土地区画整理事業区域内の建物立地件数	棟	13	H27	/	/	/	/	/	/	/	/
	その他の数値指標1	土地区画整理事業区域内の建物立地件数	棟	13	H27	/	/	/	/	/	/	/	/
4)定性的な効果発現状況	・寺家地区において、保育所やドラッグストア、スーパー、駅前の病院(診療所)等の生活利便施設の立地が進んだことにより、地区の拠点性が高まり、平岩地区等を含む広い範囲で生活利便性の向上に寄与している。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	①東広島市統合型GISによる地区内人口と駅勢圏内人口のモニタリング、②調整池効果のモニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	①引き続きモニタリングを実施し、今後のまちづくりに繋げていく。 ②災害発生時には同様のモニタリングを実施し、被害状況を確認する。
	住民参加プロセス	①寺家地区まちづくり研究協議会、②寺家新駅周辺まちづくり推進協議会、③寺西女性会、④平岩住民自治協議会・寺西住民自治協議会					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	①②本地区のハード事業は概ね完成したため、今後は住民自治協議会等と調整のうえ、ソフト面も含めたまちづくりを進めていく。 ③今後も更なる住民参加を促し、住民の主体性を啓もうすべく、広報等の情報発信体制を充実させる。 ④引き続き、地元の協議会と連携しながら、ソフト面も含めたまちづくりを進める。
持続的なまちづくり体制の構築	①平岩住民自治協議会・寺西住民自治協議会との調整、②西条第二地区まちづくり協議会との調整					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	①②引き続き、地元の協議会と連携しながら、まちづくりを進める。	

様式2-2 地区の概要

寺家地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値(見込み値)	
	指標	単位	数値	年次	数値	年次	数値	年次
目標1 : 魅力ある住環境の整ったまちを形成する 目標2 : 誰もが移動しやすいまちの形成を図る 目標3 : 災害や交通事故などのリスクに強い安全なまちを形成する	計画区域内の居住人口	人	8,000	H26	10,000	H31	10,336	H31
	寺家駅の駅勢圏内の人口増加率	%	1.6	H26	2.5	H31	3.0	H31
	浸水被害想定面積	ha	176.1	H26	157.8	H31	157.8	H31



まちの課題の変化

- ・寺家地区土地区画整理事業や地区計画区画道路整備事業等により、駅前にはふさわしい良好な市街地が形成されている。
- ・良好な市街地や新駅の整備により住環境の魅力が向上した。人口が増加する中で、地権者の同意が得られていない事業については、引き続き交渉を行っていく必要がある。
- ・人口増加や戸建てや集合住宅が立地する中で、コミュニティの形成も不可欠となっている。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・寺家駅を拠点とした良好な住環境を引き続き形成するとともに定住人口の維持・増加を図るために、土地利用を促進させ、基盤整備の効果を早期に発現させる。
- ・寺家駅周辺の居住者間の安心安全な住環境を引き続き形成することを目的に、コミュニティの形成に取り組む。
- ・交通の円滑化、地区内交通の分散化、さらに安全な歩行環境の向上に向けて(都)吉行飯田線の未整備区間の整備を促進する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標		●	-	-	-
C. 目標値	●		指標1 計画区域内の居住人口9,800人 指標2 寺家駅の駅勢圏内の人口増加率2.2%	指標1 計画区域内の居住人口10,000人 指標2 寺家駅の駅勢圏内の人口増加率2.5%	毎年末に実施している居住人口のモニタリングによる推計値が当初予定の9,800人を上回る伸び率で増加していたため上方修正を行った。
D. その他()		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									
人にやさしいまちづくり事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	雨水排水施設	143.0	L=263m	143.0	L=263m	なし	(※地権者の同意が得られず事業が完了していない)	-	-
事業活用調査	まちづくり事業効果分析	4.0	-	4.0	-	なし	-		●
まちづくり活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
土地区画整理事業		寺家地区	2,852	2,852	21-29	21-29	完了		
(郡) 吉行飯田線整備事業		寺家地区	1,663	1,663	21-28	21-28	完了		
上水道整備事業		寺家地区	185	185	21-31	21-31	完了		
下水道整備事業		寺家地区	1,396	1,396	21-31	21-31	完了		
寺西第2小学校整備事業		寺家地区	4,100	4,100	26-29	26-29	完了		
都市・地域交通戦略推進事業		寺家地区	1,170	1,170	27-29	27-29	完了		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無			
				基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし		
指標1	計画区域内の居住人口	人	令和元年度末(令和2年3月31日)時点の計画区域内居住人口を住民基本台帳データが付加されたGIS上で計測する。	-	-	8,000	H26	10,000	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定 ●	10,336	事後評価	○		
指標2	寺家駅の駅勢圏内の人口増加率	%	住民基本台帳のデータが付加されたGISで令和元年度末(令和2年3月31日)時点の寺家駅から2km圏域居住人口を取得し、平成26年度末(平成27年3月31日)時点の2km圏内居住人口と比較した年間の人口増減率を算出する。	-	-	1.6	H26	2.5	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定 ●	3.0	事後評価	○		
指標3	浸水被害想定面積	ha	浸水被害想定面積から調整池の整備によって浸水被害が解消される面積(調整池の整備によりその下流水路の断面不足が解消されるため、当該水路の想定流域を浸水被害が解消される面積)を差し引いた面積を算出する。	-	-	176.1	H26	157.8	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定 ●	157.8	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・駅周辺の交通利便性が高いエリアを都市再生整備計画区域とし、区画道路の幅員の拡幅による秩序の整った生活環境の整備を行った。さらに、寺西第2(龍王)小学校の整備や生活の中の憩いの空間となる公園の整備を行ったことにより、利便性の高い居住環境が形成され、居住人口が増加した。 ・周辺居住地のさらなる生活環境の向上に寄与することを期待した地区計画区画道路21号線事業であったが、地域住民の同意が得られず完了できなかった。しかしながら、指標への影響は見られなかった。	-
指標2	・寺家北線の整備によって寺家駅周辺のアクセス性を向上するとともに、寺家駅の自由通路は南北の移動を可能とするだけでなく、バリアフリー化に対応するなど利用者にとって利用しやすい駅舎となるように整備を行った。さらに、自転車駐車場や公共交通の待機場を屋根付きにするといった利用者目線の整備を行い、駅利用者の利便性を向上することができ、駅勢圏内の人口増加につながった。	-
指標3	・大雨から住民の生命・財産を守るため、調整池を整備することにより、浸水被害の想定面積を減少させることが出来た。 ・調整池の効果は定期的なモニタリングでも検証しており、平成30年7月豪雨災害時に問題なく機能していることを確認した。 ・さらなる生活環境の向上に寄与することを期待した雨水排水施設整備であったが、地域住民の同意が得られず完了できなかった。しかしながら、指標への影響は見られなかった。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	土地区画整理事業区域内 の建物立地件数	棟	人口の分布・集積以外の観点で土地区画整理事業による商業施設や住宅等の整備促進の盛況を面的に評価することを目的に区域内の建物立地軒数の変化を集計。 従前値は平成27年4月時点の住宅地図より、事後評価時は令和2年4月時点の住宅地図よりデータを取得した。		13	H27	モニタリング	-	-	駅周辺の関連事業等も含めた面整備による効果を計測するため。	
							事後評価	確定 ●	111		
その他の 数値指標2							モニタリング	-	-		
								確定			
その他の 数値指標3							モニタリング	-	-		
								確定			
								見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・寺家地区において、保育所やドラッグストア、スーパー、駅前の病院(診療所)等の生活利便施設の立地が進んだことにより、地区の拠点性が高まり、平岩地区等を含む広い範囲で生活利便性の向上に寄与している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
東広島市統合型GISによる地区内人口と駅勢圏内人口のモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度末 【実施結果】地区内人口及び駅勢圏内人口が増加していることを確認した。	引き続きモニタリングを実施し、今後のまちづくりに繋げていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
調整池効果のモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成30年 【実施結果】該当区域における平成30年7月豪雨災害時の被害状況を確認した。	災害発生時には同様のモニタリングを実施し、被害状況を確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
寺家地区まちづくり研究協議会	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成28年11月1日 【実施結果】JR寺家駅を中心とする寺家地区のまちづくりの現状等について報告した。	本地区のハード事業は概ね完成したため、今後は住民自治協議会等と調整のうえ、ソフト面も含めたまちづくりを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
寺家新駅周辺まちづくり推進協議会	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】令和2年2月 【実施結果】土地区画整理事業の完成記念誌を発行した。	本地区のハード事業は概ね完成したため、今後は住民自治協議会等と調整のうえ、ソフト面も含めたまちづくりを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
寺西女性会	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成28年4月2日 【実施結果】特別講演で本地区のまちづくりについて説明した。	今後も更なる住民参加を促し、住民の主体性を啓もうすべく、広報等の情報発信体制を充実させる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
平岩住民自治協議会・寺西住民自治協議会	予定どおり実施した	● 【実施頻度】16回 【実施時期】随時 【実施結果】工事案内等を周知した。	引き続き、地元の協議会と連携しながら、ソフト面も含めたまちづくりを進める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
平岩住民自治協議会・寺西住民自治協議会との調整	予定どおり実施した	●	事業完了後は平岩住民自治協議会や寺西住民自治協議会と調整を図り、必要な維持管理等を進める。	平岩住民自治協議会 寺西住民自治協議会	引き続き、地元の協議会と連携しながら、まちづくりを進める。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				
西条第二地区まちづくり協議会との調整	予定どおり実施した	●	今後は本地区と隣接する西条第二地区のまちづくりに取り組み、本地区と一体的なまちの発展を目指していく。	西条第二地区まちづくり協議会	
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画(寺家地区)庁内検討組織	都市部区画整理課、都市計画課、 下水道部下水道管理課	令和2年10月～11月	都市部区画整理課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1		
指標名		計画区域内の居住人口		寺家駅の駅勢圏内の人口増加率		浸水被害想定面積		土地区画整理事業区域内の建物立地件数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	寺家北線	-	・駅周辺の交通利便性が高いエリアを都市再生整備計画区域とし、区画道路の幅員の拡幅による秩序の整った生活環境の整備を行った。さらに、寺西第2(龍王)小学校の整備や生活の中の憩いの空間となる公園の整備を行ったことにより、利便性の高い居住環境が形成され、居住人口が増加した。	○	・寺家北線の整備によって寺家駅周辺のアクセス性を向上するとともに、寺家駅の自由通路は南北の移動を可能とするだけでなく、バリアフリー化に対応するなど利用者にとって利用しやすい駅舎となるように整備を行った。さらに、自転車駐車場や公共交通の待機場を屋根付きにするといった利用者目線の整備を行い、駅利用者の利便性を向上することができ、駅勢圏内の人口増加につながった。	○	・大雨から住民の生命・財産を守るため、調整池を整備することにより、浸水被害の想定面積を減少させることが出来た。調整池の効果は定期的なモニタリングでも検証しており、平成30年7月豪雨災害時に問題なく機能していることを確認した。	-	・駅の利便性を活かした区画により居住環境を整備、さらに道路整備により、利便性の高い地区が形成され地区計画区域内の店舗立地が進み、戸建ての住宅建設や集合住宅の開発が増加した。	
	地区計画区画道路1号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路2号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路4号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路5号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路6号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路11号線	◎		-		-		◎		
	地区計画区画道路21号線	△		-		-		△		
	2号街区公園	◎		-		○		-		
	3号街区公園	◎		-		○		-		
	4号街区公園	◎		-		○		-		
	自由通路	-		・周辺居住地のさらなる生活環境の向上に寄与することを期待した地区計画区画道路21号線事業であったが、地域住民の同意が得られず完了できなかった。しかしながら、指標への影響は見られなかった。	◎		-		-	
	自転車駐車場	-			◎		-		-	
	防災調整池整備	-			-		◎		-	
寺家1・2号道路駅前広場(照明等)	-			◎		-		-		
公衆トイレ	-			◎		-		-		
提案事業	雨水排水施設	-		-		△		-		
	まちづくり事業効果分析	-		-		-		-		
関連事業	土地区画整理事業	◎		-		-		◎		
	(郡)吉行飯田線整備事業	-		○		-		-		
	上水道整備事業	◎		-		-		-		
	下水道整備事業	◎		-		-		-		
	寺西第2小学校整備事業	◎		-		○		◎		
	都市・地域交通戦略推進事業	-		◎		-		-		

※指標改善への貢献度
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1
	・地域住民にとって住みよい環境であり続けるため、区域内の道路や公園の維持管理を実施する。 ・本事業で完了できなかった地区計画区画道路21号線を整備することで地域住民のさらに住みやすい環境整備を図る。	・地域住民にとって住みよい環境であり続けるための駅周辺環境や公共交通の維持管理を実施する。	・災害に対応できるよう適切な維持管理を実施する。	・地域住民にとって住みよい環境であり続けるため、戸建て住宅や集合住宅のコミュニティの形成を図っていく。 ・本事業で完了できなかった地区計画区画道路21号線を整備することで住環境の向上を図り、新たな住宅の開発につなげる。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3			その他の数値指標1		
指標名		計画区域内の居住人口			寺家駅の駅勢圏内の人口増加率			浸水被害想定面積			土地区画整理事業区域内の建物立地件数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	寺家北線												
	地区計画区画道路1号線												
	地区計画区画道路2号線												
	地区計画区画道路4号線												
	地区計画区画道路5号線												
	地区計画区画道路6号線												
	地区計画区画道路11号線												
	地区計画区画道路21号線												
	2号街区公園												
	3号街区公園												
	4号街区公園												
	自由通路												
	自転車駐車場												
	防災調整池整備												
寺家1・2号道路駅前広場(照明等)													
公衆トイレ													
提案事業	雨水排水施設												
	まちづくり事業効果分析												
関連事業	土地区画整理事業												
	(郡)吉行飯田線整備事業												
	上水道整備事業												
	下水道整備事業												
	寺西第2小学校整備事業												
	都市・地域交通戦略推進事業												

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画(寺家地区)庁内検討組織	都市部区画整理課、都市計画課、下水道部下水道管理課	令和2年10月～11月	都市部区画整理課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<p>◇魅力ある住環境の整ったまちの形成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地における人口の増加とともに、その周辺部における住宅開発による無秩序な市街地が進行するとともに、密度の低い居住地区が拡散しつつある。 ・狭隘道路の未整備区間があるため、一部良好な市街地の形成が困難となっている地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺家地区土地区画整理事業等により、駅周辺に良好な市街地が形成されている。 ・地区計画区画道路整備により、市街地における生活道路等の適切な配置・整備が実現され、新たな生活拠点にふさわしいまちの骨格が形成された。 ・街区公園の整備による快適な公共空間の確保、寺西第2(龍王)小学校の整備による学校教育環境の改善が、人口増加に適切に対応した住環境の形成に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区計画区画道路21号線は、地権者の同意が得られず、事業の進捗に影響を及ぼしており、当該路線の沿線及び周辺に居住する地域住民の利便性向上には必要な事業であるため、引き続き地権者との交渉を継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺家の駅周辺地区は新規住民が多く、自治会等の組織の形成が十分とは言えず、地域住民によるコミュニティ機能の向上が今後の課題である。
<p>◇誰もが移動しやすいまちの形成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業による南北駅前広場の市街地整備を行う上で、線路に分断されている歩行者動線の解消を行い歩いて暮らせるまちづくりを実現する必要がある。 ・新駅という新しいまちの玄関口にふさわしい、質の高いアクセス空間を整備する必要がある。 ・歩行者が安心して通勤・通学等できる歩道の整備改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路及び主要道路の整備により、歩車分離を行い通勤・通学など安心な移動空間の確保が図られている。 ・新駅の自由通路整備や駅前広場整備(照明・石畳)、自転車駐輪場等の整備により、質の高い駅前空間が形成や公共交通へのアクセシビリティの向上が図られ、新駅を中心とした居住人口の増加に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理区域外(東側)の(都)吉行飯田線の整備促進により、歩道等の整備による歩行環境の改善が図られることが期待される。また、当該路線の整備で市街地を通過する交通の転換が図られ、市道の渋滞が緩和し地域住民の更なる交通環境の改善が期待される。 	
<p>◇災害や交通事故などのリスクに強い安全なまちの形成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅地開発に伴う浸水被害を受けた地区及び浸水被害想定区域に対する対策が必要である。 ・都市化の進展に伴い災害発生時に必要な広域避難場所や一時避難場所となる空間の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災調整池の整備により適切な雨水処理が実現できている。 ・平成30年7月豪雨災害時において被害状況をモニタリングしており、調整池が適切に機能し、浸水被害等がほぼ生じていないことが確認されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池の他、地区内の雨水排水施設の整備を計画していたが、地権者の同意が得られず、整備が完了していない。一方で、宅地における雨水排水機能の向上は、近年の豪雨災害等の状況を鑑みると重要であり、地権者交渉を引き続き行っていく必要がある。 	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・寺家駅周辺(南側)未利用地に対する土地の利用促進	・寺家駅を拠点とした良好な住環境を引き続き形成するとともに定住人口の維持・増加を図るために、土地利用を促進させ、基盤整備の効果を早期に発現させる。	・寺家駅周辺(南側)未利用地に関する市への問い合わせ等を地権者へ情報提供するなどの働きかけを行う。
	・寺家駅周辺地区の自治組織の醸成	・寺家駅周辺の居住者間の安心安全な住環境を引き続き形成することを目的に、コミュニティの形成に取り組む。	・自治会や自主防災組織といった地域住民の自治組織を醸成するために、住民自治協議会と連携を図りコミュニティ活動を支援する。

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・更なる歩行環境の改善・向上	・区画整理区域外(東側)の(都)吉行飯田線の整備促進により、歩道等の整備による歩行環境の改善が図られることが期待される。また、当該路線の整備で市街地を通過する交通の転換が図られ、市道の渋滞が緩和し地域住民の更なる交通環境の改善が期待される。	・(都)吉行飯田線の整備

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・寺家地区においては、引き続き人口の増加が予想される中、魅力ある良好な住環境を維持していくためには、整備した公園や駅前広場を良質な状態に保っていくことが重要であり、清掃活動など地域住民と連携した取り組みを行っていく必要がある。
 ・また、周辺地域の生活サービス提供の場となるよう生活サービス施設の立地促進に取り組んでいくことが重要である。
 ・市の子育て支援サービスの広報を積極的に実施し、当該地区に住む子育て世代が住み良い環境を提供していく。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	計画区域内の居住人口	人	8,000	H26	10,000	H31	確定 ●	10,336	○	あり	-	→			
							見込み			なし	-				
指標2	寺家駅の駅勢圏内の人口増加率	%	1.6	H26	2.5	H31	確定 ●	3.0	○	あり	-	→			
							見込み			なし	-				
指標3	浸水被害想定面積	ha	176.1	H26	157.8	H31	確定 ●	157.8	○	あり	-	→			
							見込み			なし	-				
指標4							確定			あり		→			
							見込み			なし					
指標5							確定			あり		→			
							見込み			なし					
その他の数値指標1	土地区画整理事業区域内の建物立地件数	棟	13	H27			確定 ●	111				→			
その他の数値指標2							確定					→			
							見込み								
その他の数値指標3							確定					→			
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・新駅の整備を中心とした魅力ある住環境の整ったまちの形成により、宅地開発や、人口の増加が顕著に進み、定住人口や駅勢人口の指標の達成に寄与している。特に、定住人口については、目標を上方修正した上で目標値が達成されている。	・人口減少や高齢化社会の進展等の将来の社会経済情勢を踏まえた目標値を設定し、地区に見合った適切な評価を行うことが望ましい。 ・継続的にモニタリングが可能な指標を設定することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標としての「人口」は、様々な外部要因を受けやすい指標であるが、事業進捗に応じて着実な目標達成が確認できており、整備方針に合致する適切な事業の設定及びそれを評価する指標の設定が整合していた。	・事前評価時に、事業と指標の因果関係を整理し、十分に効果を計測できるかを検討し設定する。 ・また、個別事業の発現効果だけでなく、まちづくりとして一体的に鑑みた際に、相乗的に発現が想定される効果を指標として設定する。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・寺家地区まちづくり協議会を主として、まちづくりの現状報告や情報提供を適宜行った。	・住民意見の聴取は、まちづくり事業を円滑に推進するためには有効であり、継続的に実施していくことが望ましい。 ・事業計画段階において地権者の意向を十分把握する。
	うまくいかなかった点	・地権者の合意が進まない事業があった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・毎年、人口データ等をモニタリングすることで、適切な目標の設定とその達成ができた。	・事業の中間時点において、モニタリングを実施することで、事業進捗等の軌道修正に有効であるため、実施することが望ましい。 ・今後のまちづくりは行政だけでなく、住民との連携等により、別の視点・角度からも検討し進めていくと有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点	・今回の都市再生整備計画により、様々な関係部署との分野横断的な調整が図れ、庁内において様々な問題が共有できた。	・継続的に関係部署と情報・課題等を共有し、課題解決に向けて庁内横断的な体制を構築することが望ましい。
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・本市では、R4年度に「西条駅周辺地区都市再生整備計画」(H30～R4事業)、R6年度に「西高屋駅周辺地区都市再生整備計画」(R2～R6年事業)の事後評価を実施予定である。当地区の事後評価を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。